

学習評価 FIRST STEP ―小学校社会科―

1 学習評価は何のため？

学習評価の目的は、児童の資質・能力を育成することです。児童の学習状況を適切に見取り、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。



2 学習評価の機能

○指導に生かす評価

児童一人一人の学習状況を把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと
※[指導に生かす評価]の場面は、随時存在します。児童の学習改善や教師の指導改善のために、児童の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、日々の授業の中で必要な指導を適宜行います。

○記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと
※毎回の授業において、[記録に残す評価]を行う必要はありません。児童全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童の観点別学習状況を把握し、記録します。

学習評価の進め方の具体（第6学年「大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子」の単元を例に）

① 単元の目標の設定

天皇を中心とした政治の確立について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、白地図や年表、文などにまとめ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、児童の実態や前単元までの学習状況等を踏まえて設定します。



② 単元の評価規準の作成

ポイント

単元の評価規準は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の巻末資料(p.77～)に示された「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を参考にして、学習指導要領に示されている「内容」の記述形式を基に作成します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。 ② 調べたことを白地図や年表、文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え表現している。 ② 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

・下線部は、単元の評価規準作成のポイントより

③ 「指導と評価の計画」の作成

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	評価の重点	評価方法と【評価規準】
1 (本時)	聖徳太子が行った政治について整理し、学習問題をつくらることができる。	○聖徳太子が行った政治について資料で調べ、学習問題をつくる。 ○聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、誰が、どのように受け継いでいったのか、という課題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。	記録	ノートの記述内容や発言内容から「当時の世の中の様子や聖徳太子の行った政治に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思-①】 ノートの記述内容や発言内容から「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】
2	聖徳太子の死後、だが、どのような国づくりを進めたのかを理解することができる。	○中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治について調べる。 ○中国の政治のしくみを取り入れたことによる日本への影響について、資料などを基に考える。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「大化の改新をきっかけに、天皇中心の政治が進められたことを理解しているか」を評価する。【知-①】
3	聖武天皇がどのようにして世の中を治めようとしたのかを理解することができる。	○平城京の様子や地方の人々のくらしの様子について調べる。 ○聖武天皇が行った政治について調べる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「聖武天皇の力の大きさや力の広がりを理解しているか」を評価する。【知-①】
4	聖武天皇の大仏づくりがどのように進められたのかを理解することができる。	○大仏の大きさや大仏造営にかけた願いについて調べる。 ○どのように大仏がつくられたのか調べる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「大仏づくりにかけた聖武天皇の願いや大仏を完成させた天皇の力の大きさを理解しているか」を評価する。【知-①】
5	奈良に都があったころ、日本が大陸から学んだことを理解することができる。	○遣唐使が日本にもたらしたものと鑑真の活躍について調べる。 ○この頃日本は、大陸との交流により、どのようなことを学んだのか白地図にまとめる。	指導	ノートの記述内容や発言内容から「この時代には、遣唐使や鑑真などの活躍により、大陸や仏教の影響を受けた文化が栄えたことを理解しているか」を評価する。【知-②】
6	学習問題について調べてきたことを整理し、3つの立場で天皇中心の世の中について説明できる。	○中大兄皇子、聖武天皇、農民、それぞれの立場で、天皇中心の国づくりへの思いをまとめ、比較することで、天皇中心の世の中について説明する。	記録	ノートの記述した吹き出しの内容から「学んだことを振り返り、いろいろな立場で天皇中心の世の中について考え、表現しているか」を評価する。【思-②】 ノートの記述内容や発言内容から「学習を振り返り、学習問題を追究し、解決しようとしているか」を評価する。【態-①】

①②を踏まえ、単元を設計し、各時間の評価を行う観点及び評価する場面を決め、[指導に生かす評価]と[記録に残す評価]を計画します。



第1時は、2つの観点のどちらか1つを重点的に評価するなど、1単位時間内で全員の学習状況を見取ることができるよう、無理のない計画を立てます。

第2時から第5時まででは、[記録に残す評価]は行いませんが、毎時間のねらいに即して児童の活動の状況を把握し、[指導に生かす評価]を行います。

[記録に残す評価]は、単元の目標に沿って指導した結果が表れる場面が考えられます。本単元では、評価資料を集めて評価する場面を、単元の終末に設定しています。

4 小学校社会科における学習評価の進め方

手順	留意点
①単元の目標の設定	○ 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて設定します。 ○ 児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて設定します。
②単元の評価規準の作成	○ 単元の評価規準は、参考資料に示された「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を基に単元の内容に合わせて作成することが考えられます。
③「指導と評価の計画」の作成	○ ①②を踏まえ、評価場面や評価方法を計画します。 ○ どのような評価資料(児童の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりします。
授業・評価	○ ③に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。
④観点ごとの総括	○ 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点別学習状況の評価の総括(A、B、C)を行います。
○評定への総括	○ 観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又は、A、B、Cを数値で表したものに基づいて行います。

単元における観点別学習状況の評価の進め方(手順)は、基本的に左に示した流れになります。

では、実際に①②③までの手順を具体的に見ていきましょう！

ポイント



佐賀県教育センターHP
「学習評価の進め方」より

各観点における[評価方法]は以下の方法が考えられます。
「知識・技能」・・・ノートや見学カードの記述内容、ペーパーテスト など
「思考・判断・表現」・・・ノートの記述内容、発言の内容、ペーパーテスト など
「主体的に学習に取り組む態度」・・・活動の様子、発言の内容、振り返りの記述内容 など

ポイント



学習評価の詳細については、佐賀県教育センターHP「[学習評価の進め方](#)」を御参照ください。

